

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

## 公益財団法人 協和協会 時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信 夫  
両団体理事長 半 田 晴 久  
教育部会長 若 林 克 彦  
両団体専務理事 清 原 淳 平

### 教育部会のお知らせ (第331回)

日時 平成29年3月16日(木) 午後1時半～3時半

場所 衆議院第二議員会館 地下1階 第8会議室

千代田区永田町2-1-2

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より下車4分、永田町駅(有楽町線・南北線)①番出口より下車3分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。時刻前に到着された方は、恐縮ですが、金属探知機通過後、受付脇のロビーにてお待ちください。会議開始後にお越しの方は、受付に「第8会議室に行きたい」旨、お伝え下されば、お迎えにまいります。

議題 1、最近の高等教育改革について思う

挨拶 若林克彦部会長(国土舘大学元学長)

2、高等教育機関の現状について

解説 若林克彦部会長

報告 2月24日開催の、第330回教育部会は、若林克彦部会長が議長を務めて行われました。まず、若林部会長より、「最近の高等教育改革について思う」と題して解説がありました。岡山理科大学が、50年ぶりに獣医学部を設立すべく動いており、話題となっている。獣医学部の設立は長い間認められていなかったが、口蹄疫や鳥インフルエンザなどの家畜類の感染症の予防や、四国に特区を作って地域の活性化も目指していると見られる。

次に、若林部会長より、「学校に関する基本調査の報告と検討」現在公表されているものは平成26年度のものである。学校数は10年間で私立学校が60校、学生総数は4万5千人増え、教育学部が特に増えた。それに応じて教員数も増え、特に女性教員は顕著な増加傾向を示している。一方、大学院生は減少傾向にある。大学生が卒業後どのような進路に進んでいるかについては、正規・非正規含め就職者は約7割、進学者は約1割強だが、進学も就職もしていない、いわゆるニートやフリーターも、一時期に比べて減ってはいるものの12%存在する。大学院生についても、修士課程では、8割は就職、1割は進学だが、非就職・非進学者が同じく12%存在する。博士課程はさらに深刻で、正規雇用は5割、非正規雇用が2割で、非就職・非進学者は20%にも及んでいる。こうしたデータが大学院への進学をためらわせている一因であると考えられる。また、以前に当部会のレクチュアにて、理工系課程に進んだ女性の卒業率がOECD最低レベルであるとか、博士号をもつ非正規雇用者が多すぎるといふ指摘は複数の講師からされていた。一時期10万人を超えていた非就職・非進学者も減少傾向にあるとはいえ、相変わらず対策が必要である。

その後の意見交換では、○奨学金を返済できないことから、教育無償化が野党筋から出ているが、国債をこれ以上発行できないのだから、財源がない。成績によって奨学金の額を決めればよい。○経済界の協力を得て、高卒や中卒でも就職できるように改革すべきだ。今のままでは大学入るのが目的化してしまうので、高校生あたりで進路を決断させるべきだ。○国立大は研究、私立大学は人材育成と役割分担をすみ分けてみてはどうか。○大学を潰すのは簡単だが過疎化がますます進むという面もあり、解決はむずかしい、等々の意見が出ました。

★資料代 会員は五百円、非会員は二千元 御願ひ申し上げます。

次回、3月16日(木)の教育部会に

出・欠 (いずれかに○印)

事務局宛 F A X 03-3507-8587

御芳名 \_\_\_\_\_

貴方様の F A X \_\_\_\_\_

電話 \_\_\_\_\_

テロ対策への警備から、**非会員で参加希望の方は、必ず、**

**前日までに事務局へ御連絡下さい。**

当日連絡先 080-8836-6203 又は 080-9292-2620

協和協会事務局 ☎03-3581-1192 時代を刷新する会事務局 ☎03-3272-4320  
H P <http://www.jidaisassin.jp> Eメール [kiyohara@jidaisassin.jp](mailto:kiyohara@jidaisassin.jp)